

廃人が
書いた
恋愛論

真田 雪村

装丁 / イラスト 溝上なおこ

はじめに

この腕は、皆さんが想像している通りのものです。

精神安定剤に頼るは、剃刀で切るは、自殺願望は強くなるは、死線をさ迷いました。自分がこの世を去る前に残せるもの、伝えるべき知識、自分が体験した記録を残すためにペンを握り、一冊のエッセイ本にしようかと思えます。

それがこの日本で、自分が生活していた証です。

人生の中で、最大の苦難で障壁だったのは、失恋でした。

失恋自体も苦痛だったが、失恋ぐらいで自殺すんな、と誰にも理解を得られないことも苦痛だった。

小一の頃から好きだったあの子の面影、スマ



イルが脳裏に焼き付き、今もなお夢の中で現れる。

「俺にはもう関係のない女性だ、彼女は既に結婚をしている、もう忘れるんだ」
現実や理屈を自分に押し付けても、返ってくるのは真実の想いだけでした。

真実……。自分の中にある嘘のつけない気持ち、本来求めるべき人。

勇気が、後押しが欲しかったあの頃。

あの時間を返してほしい、告白できる機会がほしい……。

自分が出るのは、失恋を機に色んな本を読んで勉強したこと。

勉強したことを一冊の本にして、彼女の元に届ける。

この本よ、想いよ、彼女の元へ届けておくれ。

それが自分にとって、一つの告白の形だから。

目次

■ 目次

はじめに	3
反応論 1	9
人間は反応を愛する生き物である	9
反応論 2	12
反応による最低限の抑制	12
美貌の真意 1	14
ファツシヨンの本質	14
美貌の真意 2	16
美人と醜女	16
子供用玩具は不要	18
玩具は愛情の盲目化	18
刺激論	20

芸能界による麻薬のような刺激空間 20

過度の世話焼き 22

世話の焼き過ぎは不要 22

夢と職業は隣り合わせ 24

Life is war 24

男女の交際 26

付き合う心掛け 26

●モラルとマナー 27

●服装は自分の第一印象を、相手に与えるものである 28

●雑学があり会話が豊富なほど、話題が弾み樂しみを覚える 29

●恋人と一緒にいる精神状態として…… 30

飽き、というマンネリ現象 31

恋愛にも勢いと衰え 31

愛情の強弱は、信頼に左右す 32

信頼は恋愛を支える 32

目次

性欲を満たす必要性	34
人間の3大欲求	34
性欲を満たす必要性2	36
性欲を満たす機会	37
言葉の重み	39
野生化の必要性	41
解放の意味	44